

1-1. 「五中EXPO2023」とは

- 班（グループ）ごとのアイデア発表 全校大会
- 設定した課題解決プランのプレゼンテーション
- 各クラスの代表班による発表
- 発表会場と各教室のオンライン開催
- 発表形式は自由



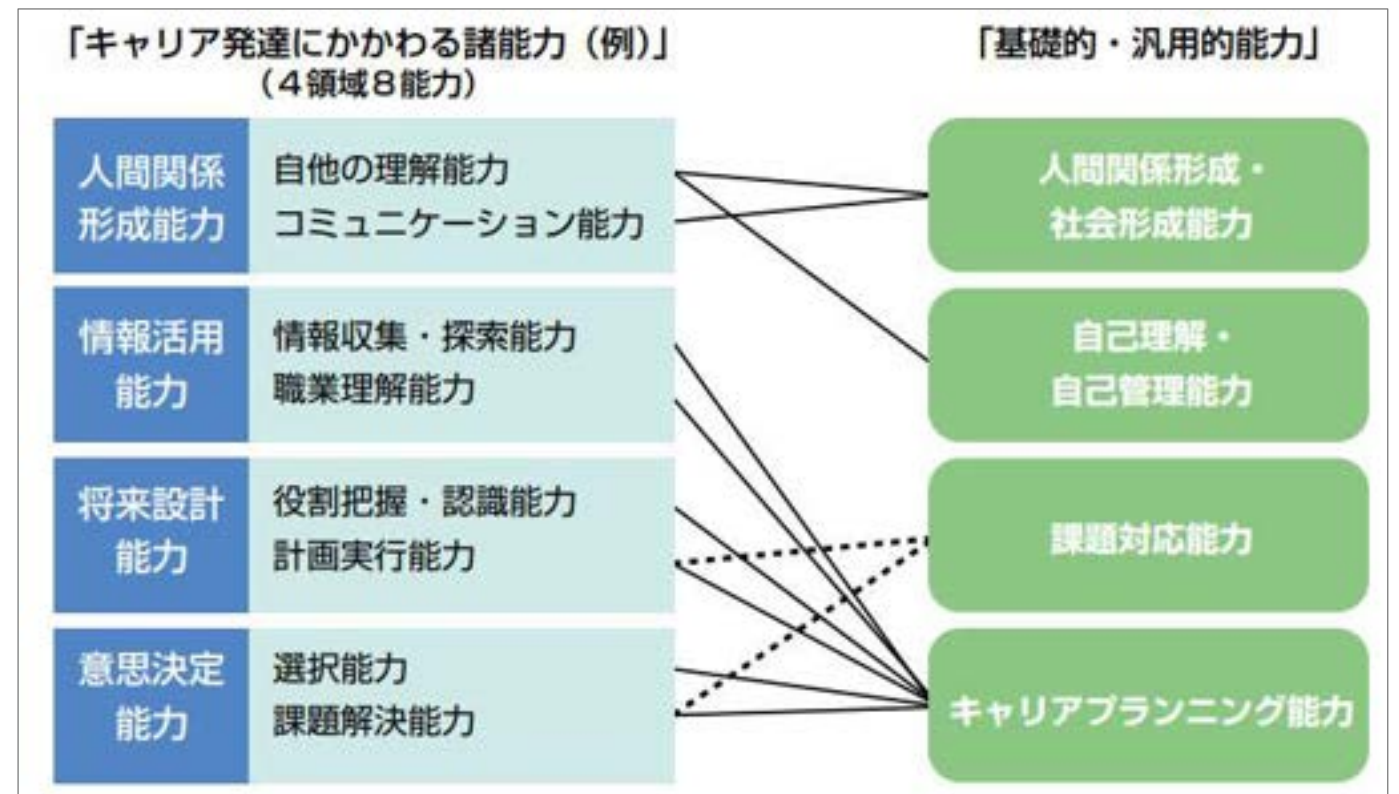
1-2. 「五中EXPO2023」とは

- 教育委員会、地域企業、全国企業等、講師参加
- 講師からのフィードバック・コメント
- 地域教育協議会、学校運営協議会、PTA代表、校園長
- LIVE配信
(保護者、参画企業)



2-1. キャリア教育の流れとして

- 文部科学省資料
- 生徒の実態
- 教職員で確認・共有



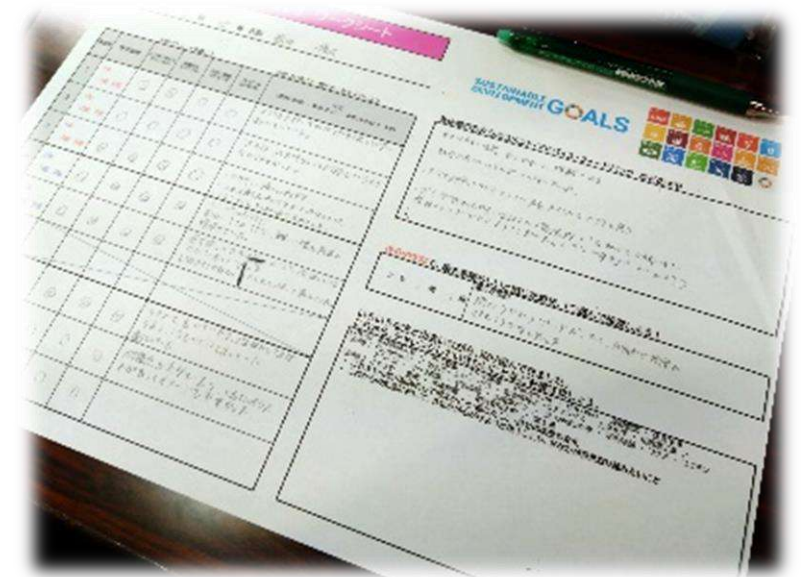
2-2. キャリア教育の流れとして

- 多くの外部企業と連携
- 万博教育Pも活用
- 複数のプログラムを活用
- 各学年で経験に合わせて

	1年	2年	3年
6月		Panasonic「私の行き方発見」	
7/7(金)	ファーストリテイリング「“届けよう、服のチカラ”プロジェクト		
10/4(水)	武田薬品工業と MTG		
10/5(木)	KDKDK 探求学習 ・テーマを与えてもらい、チームで課題 解決プランを創造し発表する ・企業の方と協働し奔走していただく		市内企業との MTG 豊興・中商食糧・さくらや・明治堂の生命
10/6(金)		CCD On-line-Meets	
10/27(金)		アイデア MTG【松原市版】 アフーズ・ミヤノ産菓・宇治森香・山崎製パン	
11/10(金)		アイデア MTG【大阪府版】 正十屋・たけなす・平野製菓・コナコユニオン	富士通デザイン思考オンライン MTG
11/17(金)	クラス EXPO		
11/21(火)			クラス EXPO
12/1(金)		クラス EXPO	
12/6(水)	【5p】全学年交流会 放課後リハーサル(各クラス代表班1・総合学習室)		
12/11(月)	【5・6p 特設】五中 EXPO2023		

2-3. キャリア教育の流れとして

- 統一した流れにするため、「SDGs」を活用
- 日本や世界課題を知り、その課題解決を探る
- 全ての班でアイデアを作成
→ブラッシュアップをくり返す
- 「クラスEXPO」 → 「五中EXPO」
- 全アイデアを「Youth Action」に応募



2-4. キャリア教育の流れとして

- 代表グループの発表
- 講師の方のフィードバック・コメント
- 各教室からのコメント



3-1. ふりかえりと次年度に向けて

■ 生徒アンケートの変容

全学年、4件法における肯定的評価の割合、学期に一度実施しているものの集計

	R3. 11.	R4. 11.	R5. 11.
将来の夢や目標を持っている	61.3	70.7	<u>73.0</u>
地域や社会をよくするために 何をすべきかを考えることがある	62.5	70.5	<u>73.6</u>

3-2. ふりかえりと次年度に向けて

■ 生徒アンケートの変容

全学年、4件法における肯定的評価の割合、学期に一度実施しているものの集計

	R3. 11.	R4. 11.	R5. 11.
自分にはよいところがあると思う	73	73. 4	<u>75. 3</u>
学校に行くのは楽しいと思う	82. 6	85. 2	<u>87. 2</u>

3-3. ふりかえりと次年度に向けて

■ 教員ふりかえり

- 有意義 100%
- がんばっていた 100%
- 生徒が狙いを把握 95%
- 生徒が成長 95%
- 来年度も実施 95%

■ 生徒ふりかえり

- 有意義 83%
- がんばった 88%
- 前向き 87%
- ねらいを把握 80%
- 成長した 85%

3-4. ふりかえりと次年度に向けて

- 教員によるふりかえりより
 - 「探求」「課題解決」学習 → 「教えない授業」
 - 「継続」することで自分たちで高められるように
 - 「地域」や「社会」とつながることを実感
 - 「全学年」で取り組むことによる刺激の与えあい

3-5. ふりかえりと次年度に向けて

■ 生徒によるふりかえりより

- 「相手の立場になって考える力...」
- 「次の世代を任せられるように...」
- 「これからの社会をつくっていくのは自分たち...」
- 「自分事に置き換えて...論理的に...役割分担...判断力...」

4-1. (資料) 応募用紙より転載

- 誰を対象にどのような目的で、活動を行っていますか。
 - 対象は中学1～3年。「キャリア教育」として全学年で取り組んでいる。「探求学習」「課題解決学習」としている。中学3年間で必要とされている「人間関係形成能力」「情報活用能力」「将来設計能力」「意思決定能力」を養う。特に、「コミュニケーション能力」「課題発見・課題解決能力」「プレゼンテーション能力」「職業理解能力」の向上をめざしている。SDGsについてはこの取り組みを全学年そろえて行いわかりやすくする上でのツールとして活用するとともに、将来と今に目を向けさせている。

4-2. (資料) 応募用紙より転載

- 具体的な活動内容について記載ください。
 - すべての学年において4・5人の「班」ごとに活動。自分たちが解決すべき課題を設定し、解決のためのアイデア・アクションを検討。それぞれの学年で地域企業などと交流。「職業・職種」などの学習に加え、実践されている取り組みを聞き取る。検討したアイデアを中間発表として外部の方にプレゼン。その後ブラッシュアップ。クラス発表会「クラスEXPO」を開催し代表班を決定。各クラスの代表班による「五中EXPO」を開催。外部の方にも参加していただきコメントなどフィードバックをいただく。2021年から継続実施して3年目。「五中EXPO」前に「全学年交流会」を行い、縦のつながりをつくる。

4-3. (資料) 応募用紙より転載

- 学生の主体性・自主性がどのように発揮されているか教えてください。
 - テーマ設定からすべて生徒がたちが主体的・自主的に行っている。自分たちでGIGA端末を活用して調べてまとめて発表までを行う。「クラスEXPO」「全学年交流会」「五中EXPO」において司会進行を生徒が行い、生徒の質問・意見・感想の交流が行えるように実施。教員側が「正解」を知っているわけではないので「教える」という形式にならない。自分たちで探求しなければ解決していかない問うことを繰り返し行っている。縦のつながり、継続性という面で、上級生の「モデル」を自分たちの将来像として重ねながら自ら成長している。

4-4. (資料) 応募用紙より転載

- SDGsの三側面の調和。経済面。
 - 生徒のアイデアは独創性に富んでおり大変おもしろく興味深いものが出ることが多い。ただ、そのアイデアを具体的に実現させる上で、金銭面に関する課題がでること多い。そういった面を教員が指摘することは単なるダメ出しになってしまいかねないが、外部講師の一般企業で実際に取り組まれているような方が意見してくださることで、生徒は正面から課題として受け止めることができているように感じる。また、「いいね」というアイデアであったとしても、実現することで助かる人もいる反面、苦境に立たされる人もいるという視点に自分たちで気づくということがある。解決にまでは至らなくても、中学生が経済面への影響を考えることにも意義がある。

4-5. (資料) 応募用紙より転載

- SDGsの三側面の調和。社会面。
 - 社会全体にどのように広めていくことができるかということを考えるきっかけになっている。何か物事を考えるときに社会課題を全体でみていく、取り組んでいくというスタイルを考えられるようになっていく。誰か一人が何かをやってもなかなか変わらない、社会全体で取り組むことの重要性に中学生が気づくことにも意義があると感じている。誰に、なぜ、どのように協力してほしいのかを具体的に考えることで、そういった気づきにつながっている。「共生教育」という側面でも、他者を理解する学習になっている。「だれ一人取り残さない」理念についても人権教育として大切なことで、幅広い面で理解が進んでいる。

4-6. (資料) 応募用紙より転載

- SDGsの三側面の調和。環境面。
 - メディアなどの影響か、わかりやすさからか、自分たちに身近であるからか、「SDGs」と聞いた時に「環境問題」にスポットをあてる生徒が多い。結果として多くの発表が「環境」をテーマに考え発表することで意識の高まりを感じられる。環境問題を解決してくれるようなロボットの開発などを考える班もあるが、まとめとして自分たちはまずできることから始めたい、などと考える機会が幾度もあり、意識の高まりを感じる。もちろん、実際の開発に意欲をもって卒業していった生徒もいる。

4-7. (資料) 応募用紙より転載

- 指導の工夫や、誰一人取り残さない工夫を教えてください。
 - 「班」での活動により学習が苦手・後ろ向きな生徒にも輝く機会をつくっている。外部講師との出会いを繰り返し設定することで意識が向上している。全学年で実施することで一体感を生み出している。異学年での交流会の設定で互いの刺激になっている。生徒が輝くことができるチャンスを司会や意見交流で複数回設定することでいろいろな生徒が活躍している。外部講師の方からのアドバイスの後のブラッシュアップの機会を設定することで成長している。オンラインでの全体会により参加しやすさの向上。リハーサル機会により安心感とレベルアップのチャンスの設定。最終の発表会は各企業・保護者にLive配信することで周知を図った。

4-8. (資料) 応募用紙より転載

- 活動の実施体制について教えてください。指導者の専門性、連携機関の役割等を記載ください。
 - アイデア作成時は教員は「伴走」するような感じで、互いに正解を知らない状況なので楽しみながらできるようにしている。外部講師の方々との連携を大切にしている。プレゼンテーションを聞いていただき、認めていただきつつアドバイスをいただく機会として設定している。また、プログラムによっては、実際に行っている取り組みを教えていただくことで、それぞれのアイデアの参考にできるようにしている。複数の教育プログラムを活用することで実現している。また、外部の方が入ってくださることで、良い緊張感が生まれ、生徒の意欲向上につながっている。

4-9. (資料) 応募用紙より転載

- 活動の成果を結果や学生達の変化や成長の視点でご記入ください。活動が周囲に与えている影響を教えてください。
 - 同級生の中でコミュニケーションが生まれている。発表することが苦手という生徒も前に立つだけでも成長、さらに話をしたり、レベルを上げて覚えて話すことにもつながっている。スライド資料の手の入れようも飽きさせない工夫を考えられた。生活に「だれ一人取り残さない」という気持ちを生かしている。自分たちのアイデアを将来実現するんだと言って卒業していった生徒がいる。保護者の方・地域の方にも公開しご意見をいただいた。登校に後ろ向きな生徒がこの取り組みの機会は大変前向きに登校でき、その後も笑顔で登校する姿が見られた。課題を見つけ、課題を解決しようとする姿が見られる。

4-10. (資料) 応募用紙より転載

- 他の教育現場でも活かせるポイントや、活動の持続可能性を記載ください。
 - 市の教員の研修会や地域との交流会などで取り組み報告を実施。目的を明確にして実施することで生徒の成長が見られることを報告。他校の実践にも多少形式は異なるもののキャリア教育としての流れに活かされている。外部の教育プログラムはたくさんあるので、そのような社会リソースの活用は今後さらに増やしていくべきである。単独のプログラムを組み合わせ、全体的なカリキュラムとして整理することは有用。学年独自の取り組みではなく、学校としての取り組みとすることで持続可能性は高まっている。「SDGs」のゴール・ターゲットを入口にせずとも自分たちで課題設定をすることはいつになっても可能である。